

地域の生活文化が児童の心身飛達に及ぼす影響因子に関する児童学総合研究 (秋田調査第12報) "秋田県鳥海町における Socialization." 大妻女大家政
 〇川邊恵子, 平井信義, 干羽喜代子, 長坂陽雄, 大場幸夫, 松本寿昭, 中村悦子

<序> 本研究は科研費補助による秋田県鳥海町を拠点とした一連の児童学総合研究の一端を荷っている。ここでは特に、思春期女子の社会化過程に関する検討の成果について報告する。 <目的> ①一地域における思春期女子の生活実態 ②その社会化指標の検討 ③生活構造の視点からの検討。 <方法> 秋田県農村過疎地域である鳥海町を対象地域とした。そこに長期的に滞在生活することにより、対象者層との意志疎通をはかることに重点をおき、フィールドリサーチ手法を用いた。 <結果> (1)生活実態の特徴 ①思春期始期は12歳、②周辺生活(興味、趣味、流行等)は都市児童並み ③いわゆる一般的思春期的特徴の存在 ④同地域の男子に比べ女子の生活行動範囲の狭さ ⑤状況に流されやすい傾向と問題意識の乏しさ ⑥僕然とした地域脱出願望 (2)社会化の指標 ①思春期始期の相対的遅さ ②大人扱いの早さ ③高卒時の進路問題をめぐる親との摩擦 ④農業逃避の形をとる地域脱出願望 (3)生活構造との関連からみた思春期問題の留意点 ①志向の都市化近代化 ②見えない鎖 ③生活世界の狭さ ④都会より短い思春期 ⑤鳥海に帰れば何とかなるという考え ⑥改善されぬ生活への慢性的不満 ⑦志向と現実のアンビバレンス ⑧依存的に流される生活 ⑨青年の無気力さ ⑩問われる思春期葛藤の負

以上のことから、鳥海の思春期女子の社会化を考えるに際してのキーワードとして、「主体的意志決定の弱さとその機会の少なさ」が擧げられる。

このような成果をふまえて、この地域における児童の飛達環境に関する改善課題を、今後とも具体的に現地の専門職スタッフと共に検討を進めたい。